

出前授業実施の手引き

令和6年10月 大阪市総合教育センター

出前授業とは

出前授業とは、企業・事業所等の方が講師（ゲストティーチャー）として学校園に出向き、自らが経験した職業、職種、仕事の内容に関する知識をはじめ、仕事に対する思いや考え、働くことの意義ややりがい、生き方・将来設計等の職業観に関する授業を行うものです。

学校園では、このような講師による働きかけを、子どもたちの夢を育んだり学習意欲を高めたりするきっかけをつくるものとして、教育活動の中に位置付けて積極的に取り組んでいます。

出前授業の意義

「ほんまもん」と出会うことができる

出前授業には、ゲストティーチャーの専門分野に関する特有の「ほんまもん」があります。「ほんまもん」との出会い、子どもたちの興味・関心を高めたり、自分自身のよさに気付いたり成長を実感するきっかけとなります。また、自分の将来について考え、なりたい自分を見つけるきっかけにもなり得ます。

出前授業は、子どもたちが「ほんまもん」と出会う、ほんまもんに触れる、ほんまもんに感動する」という点において、大変意味のある取組です。

学習の意義を知ることができる

出前授業を通して、「なぜ学ぶことが必要なのか」「学んだことがこの先の人生でどのように活かされるのか」という「学習の出口」がわかるようになります。例えば、科学技術系企業による出前授業に参加した子どもたちが、最先端の科学技術に触れることで「理科で学習した知識と出前授業で触れた最先端の科学技術のように社会で活用されているもの」と関連付けて考えることができるようになり、理科への興味・関心を高め、理科が好きになったという事例もあります。

多くの「ほんまもん」と出会うことで、「なりたい自分」を見つけることができる

出前授業を通して多くの「ほんまもん」に出会う中から、「どのような職業につきたいか」「どのように生きたいか」等、「なりたい自分」の具体的なイメージをつかむことができます。「ほんまもん」との出会いを契機に、子どもたちは「なりたい自分」になるための目標を設定し、普段の学校生活での過ごし方や学習に取り組む姿勢、ひいては進路選択に対する意識が変わっていきます。

「出前授業」は、大阪市の未来を担う子どもたちのための非常に有意義な取組です。より多くの企業・事業所等の皆様が、本ガイドラインをご活用いただき、出前授業の実施にご協力いただきたいと願っています。

企業・事業所等から見た「出前授業」で期待される効果

出前授業の実施により、大阪の将来を担う子どもたちの勤労観、職業観の育成に貢献することができます。そして、子どもたちの健全な育成は、地域の発展にもつながっていきます。また、このような社会貢献としての効果に加え、次のようなメリットがあります。

企業イメージや知名度の上昇

子どもたちに働く姿や仕事に対する思いを伝えることで、そこで得た学びが子どもから親、親から地域へと広がり、企業イメージや知名度が上がり地域に浸透していきます。

職場の活性化と社員のモチベーションアップ

講師となった企業等の方が社会貢献を意識することで業務に対するモチベーションが上がるとともに、子どもたちとの関わりを通して、新たな視点で職場を見直すことにつながります。また、子どもたちに勤労観や職業観等に触れる視点から仕事のよさややりがいを語る中で、自身の仕事への誇りや意欲向上につながります。

社員教育の場として活用

出前授業の際は、仕事内容を分かりやすく、かみ砕いて説明する必要があります。説明を通して、社員が自己の業務の理解を深めるとともに、新入社員等の指導の際にその経験を活かすこともできます。

仕事・会社の改善につながります

子どもたちの素直な疑問や質問、斬新なアイデアや発想等を聞くことは、外部の貴重な意見に触れる機会になります。

出前授業実施のポイント

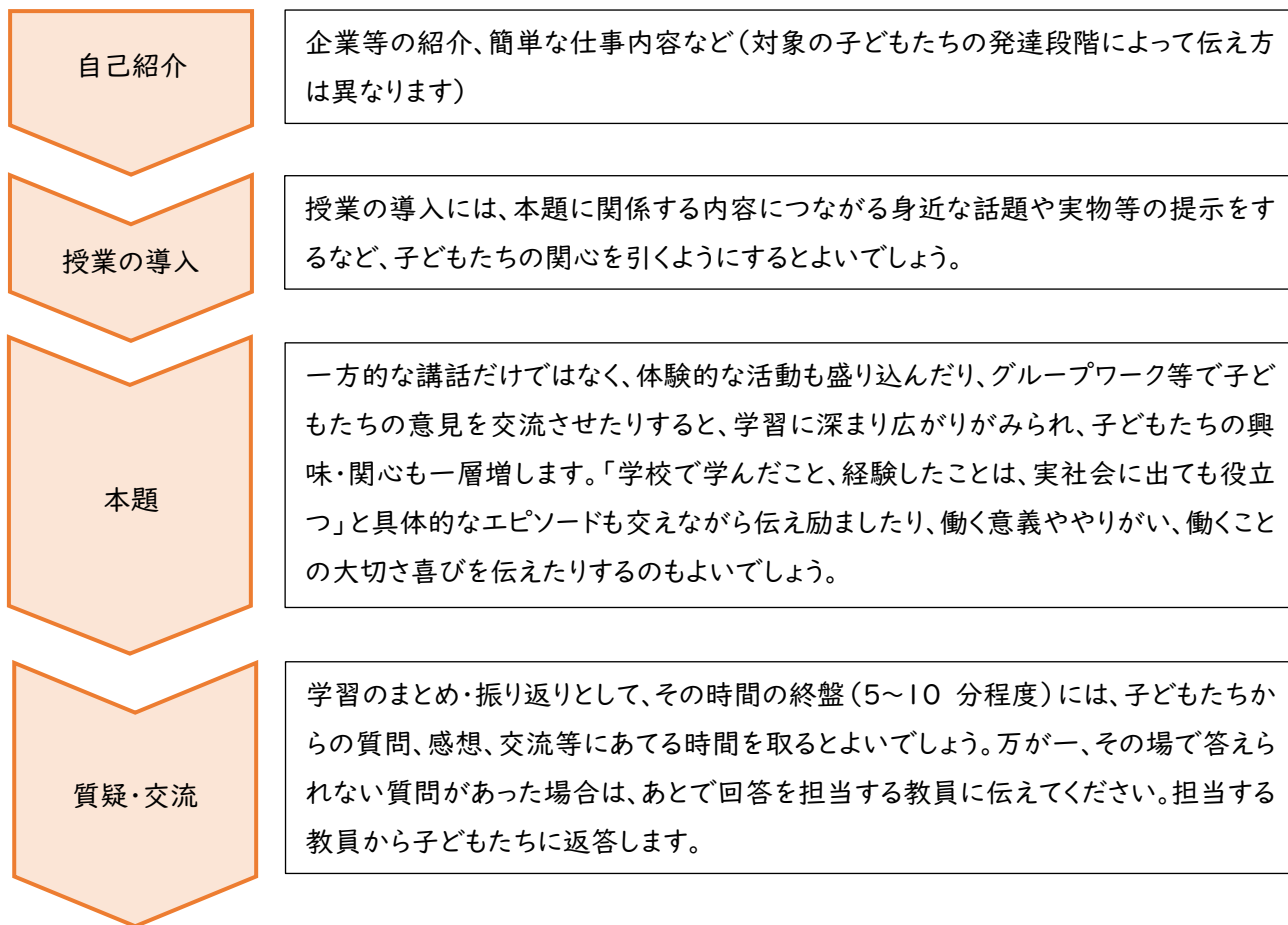
お話しいただきたい内容(例)

- ・働くことの意義ややりがい、大切さ、意欲、楽しさ、喜び、苦しさ、生きがい
- ・これからの社会で生きていくために必要な力(気力、体力、学力、人間力、社会性、コミュニケーション力など)
- ・時代や社会の変化、世界の動き、日本の役割
- ・子どもの頃に抱いていた夢や目標
- ・なぜ今の職業を選んだのか
- ・学校での勉強がなぜ必要か
- ・学校での勉強で役に立ったこと

子どもたちに期待される効果

- ・働く大人の「生の声」を直接子どもたちに届けることで、働くことの意義ややりがい、働くことの大切さ、そして、生きることの素晴らしさをも伝えることができます。
- ・子どもたちが生まれ育った地域を自己実現の場所として考えるきっかけになります。
- ・子どもたちに、将来に対する夢や希望を抱かせるきっかけづくりになります。
- ・保護者や先生以外の様々な大人と触れ合うことで、コミュニケーション能力を高めることができます。

授業の組み立て方の例(時間:通常の時間割で、小学校 45 分/中学校 50 分)



話し方のポイント

- ・ ゆっくりと、できるだけ大きな声で話します。対象とする子どもたちの人数や実施場所によっては、マイク等の機器を使用する場合があります。
- ・ できるだけ易しくわかりやすい言葉で話します。子どもたちの発達段階等に応じて伝え方や伝えることばは変わってきます。不明な点がある場合は、担当の教員や OEN コーディネーターに事前に相談するようにしてください。例えば、大人にとって当たり前の「企画」や「営業」という言葉であっても、子どもたちには伝わりにくい場合があります。それぞれ、「計画を立てること」、「商品をお客様に売る仕事」などと言い換えて説明することで、伝えたい内容の理解が深まります。
- ・ 子どもたちは、話をする講師の表情や話し方等の立ち居振る舞いをよく見えています。社会に出て働く一人の大人としての見本となる態度で臨んでいただくことで、子どもたちの模範となります。にっこり笑顔で柔らかな表情で伝えることも大切です。また、例えば低学年の子どもたちに話をする際には、視線を低くし、目線を合わせるようにするとよいでしょう。
- ・ メリハリをつけて話をするるとよいでしょう。合間に質問等を投げかけながら子どもたちの発言を引き出すといった、対話形式も効果的です。
- ・ 学校との打合せの際に、事前に伝える内容を提示したうえで、配慮すべき表現やその伝え方等については、あらかじめ教員に確認するようにしてください。

資料作成の留意点

- ・ 出前授業の際に、プロジェクター等を活用してスライドでその内容を伝える場合は、スライドの枚数が少ない方がよいでしょう。事前に学校に内容や時間配分等を伝えたくて、当日に臨むようにしてください。出前授業当日は、決められた時間内できちんと収めるよう心がけてください。スライドは、文字だけでなく、写真・図・イラスト等を使うとより分かりやすくなります。
- ・ 実物の製品や作品、映像、衣装、実験器具など様々な「小道具」を用いたり、実際に体験したりすると、子どもたちの興味・関心を引きやすくなります。
- ・ 特に小学校の場合、使用する漢字に留意する必要があります。習っていない漢字や専門用語等を使用することは極力避け、ルビを振る、解説を付ける等の工夫をするとよいでしょう。
- ・ 資料については、事前に担当の教員に目を通してもらうようにしてください。

注意事項

- ・ 学校園は、子どもたちの安全を守っています。来校時には、来校者受付簿への記入を求めている学校もありますので、その学校園の指示に従ってください。なお、出前授業で、学校園に訪問する日時や人数、氏名等は事前に学校園にお伝えください。
- ・ 出前授業を通じて知り得た情報を外部に漏らさないようにしてください。また、ゲストティーチャー自らの個人情報を子どもたちに開示しないようにしてください。
- ・ 子どもたちは「自分を見てほしい」「甘えたい」などと、スキンシップ(体を触りにくる等)を求めてくる場合がありますが、子どもの性別・年齢にかかわらず、誤解を生まないよう、子どもたちへの接し方に関しては細心の注意を払うようにしてください。

※出前授業に関する質問・相談等がありましたら、次の担当まで、いつでも気軽にご連絡ください。

大阪市総合教育センター 教育振興担当 大学連携グループ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

電話： 06-6718-7446

e-mail： daigaku-renkei@city.osaka.lg.jp